

各関係機関長 殿
病害虫防除員

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長

(公印省略)

平成21年度農作物病害虫発生予察情報について

平成21年度農作物病害虫発生予報及び月報を発表したので送付します。

平成21年度農作物病害虫発生予報第2号

平成21年5月15日
徳島県

果樹

カンキツ

そうか病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では,発生を認めなかった(平年同時期の発生圃場率は17.0%,発病度は0.2)。
- (2) 5月8日発表の1ヶ月予報では,気温が高い確率が60%,降水量が多い確率が40%と予想されており,やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生圃では落花期に薬剤防除を行なう。

黒点病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では,春葉での発生を認めなかった(平年同時期も未発生)。
- (2) 5月8日発表の1ヶ月予報では,気温が高い確率が60%,降水量が多い確率が40%と予想されており,やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 枯れ枝,剪定枝は圃外へ持ち出して処分し,病原菌密度の低下に努める。
- (2) 落花期に薬剤防除を行ない,その後1ヶ月,または降水量200~250mm毎に防除を励行する。

かいよう病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で,発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では,発生圃場率は60.0%,発病度は0.1であり,ほぼ平年(47.5%, 0.3)並の発生である。
- (2) 5月8日発表の1ヶ月予報では,気温が高い確率が60%,降水量が多い確率が40%と予想されており,やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病枝のせん除を行ない,常発圃や罹病生品種圃では防除を励行する。
- (2) 風当たりの強い圃では防風対策を講じる。

ヤノネカイガラムシ

1) 予報内容

発生時期 平年よりやや早い(前年よりやや早い)

2) 予報の根拠

(1) 県予察圃場での第1世代幼虫の発生は5月10日に初確認された(平年:5月14日,前年:5月14日)。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤による防除適期は, IGR剤の場合, 発生確認の10~15日後, 有機リン剤の場合, 35~40日後の時期である。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 県予察圃場(5月8日調査, 無防除区)における調査では, 寄生葉率は12.0%, 1葉当たりの寄生虫数は0.14頭であり, 平年(4.1%, 0.04頭)と比べてやや多めの発生である。

(2) 5月前半の巡回調査では, 発生圃場率は60.0%, 寄生葉率が22.5%であり, 平年(42.3%, 7.7%)と比べてやや多めの発生である。

(3) 5月8日発表の1ヶ月予報では, 気温が高い確率が60%, 降水量が多い確率が40%と予想されており, 発生に中立的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には, 充分な量の薬液を散布する。

(2) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので, 同一系統薬剤の連用を避ける。

ナシ

黒星病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で, 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 5月前半の巡回調査では, 発生圃場率は14.3%, 発病葉率は0.1%, 発病果率は0.0%であり, ほぼ平年(10.3%, 0.16%, 0.1%)並の発生である。

(2) 5月8日発表の1ヶ月予報では, 気温が高い確率が60%, 降水量が多い確率が40%と予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 防除暦に準拠し, 初期防除に努める。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) 5月前半の巡回調査では, 発生圃場率は71.4%, 寄生新梢率は5.7%であり, 平年(39.3%, 3.95%)と比べてやや多めの発生である。

(2) 5月8日発表の1ヶ月予報では, 気温が高い確率が60%, 降水量が多い確率が40%と予想されており, 発生に中立的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2) アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので, 薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。防除の際には, 充分な量の薬液を散布する。

(3) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので, 同一系統の薬剤の連用は避ける。

果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生時期 平年より早い(前年より早い)
 発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 今春の予察灯調査において、上板町では平年(4月27日)より早い4月13日にツヤアオカメムシの初誘殺を確認した。4月中の誘殺虫数は少なめで推移していたが、5月に入り、やや増加傾向にある。
- (2) 5月8日発表の1ヶ月予報では、気温が高い確率が60%、降水量が多い確率が40%と予想されており、発生に中立的な気象条件である。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝 浦 町					上 板 町				
	2009年	2008年	2007年	2006年	平 年	2009年	2008年	2007年	2006年	平 年
5.1	1	5	9	28	38	6	4	51	0	48
5.2	42	8	12	172	88	21	2	26	72	84
5.3		1	21	19	48	20	0	32	25	83
5.4		8	7	895	101		5	27	143	44
5.5		56	77	378	128		8	130	27	62
5.6		28	9	475	161		3	42	32	36
6.1		8	27	475	98		3	14	17	31

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝 浦 町					上 板 町				
	2009年	2008年	2007年	2006年	平 年	2009年	2008年	2007年	2006年	平 年
5.1	0	11	4	22	12	3	5	7	0	21
5.2	17	1	9	144	52	46	3	32	75	46
5.3		0	16	2	22	62	0	18	0	36
5.4		1	15	262	42		5	7	59	16
5.5		5	57	201	72		8	23	17	24
5.6		3	12	208	75		2	18	1	25
6.1		2	14	73	25		2	8	4	52

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行なう。
- (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施する。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

.その他

- 1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水して下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所

テレフォンサービス：0883(26)1199

URL：http://www.green.pref.tokushima.jp/boujyosyo/

病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。